

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです
時間は味方にもなれば敵にもなる。時間を味方にしなさい。

「佐藤君、最近いい顔になったな」船井幸雄社長を後部座席に乗せて、伊丹空港から宝塚の自宅へと走りはじめたとき、突然の一言でした。すでに数日の徹夜で、相当ひどい顔のはずでしたから、驚いてルームミラー越しに先生の顔を見つめてしまいました。「うん、いい顔だ。そんなときはな、時間を味方にしているときだからな」時間を味方にする……思わず問い返した私に噛んで含めるように、時間は味方にもなれば敵にもなると言ったのです。「嫌な仕事があるだろう。その仕事も君に何かを教える役割を持っていると思ってあげることなんだよ」何回となく、出来事はすべて必然性があるって起こると教えられていました。しかし、何度教えられても、嫌な出来事には舌打ちの一つもしたくなります。目をそらし、早く忘れたくもなります。「声に出して聞いてごらん。おいおい！何を教えようとしてやってきたんだい？と。難しいことじゃない」成功する人々は自問の力を持っているように思えます。自問、自らに問いかけるのです。これでよいのか？もっと違う選択肢があるのではないか？この失敗は、どうして発生したのか？どんな出来事を前にしても、自分を責める前に自問を発する、そのなかでその出来事の必然性を理解する。成功者のとても大切な素養であると思えます。嫌な出来事や失敗から、つい目をそらしてしまうのは人間の常です。しかし、その結果は……。「同じ失敗や嫌な出来事が、二度でも三度でも追いかけてくるぞ。その出来事から学ばない限り、繰り返し起こる」「そんなときは、時間が敵になっているときなんだ」自問の力が成功者には備わっていると言えますが、自問にはおのずと答えがあるものです。自問を発した瞬間、人間はすでに答えをみつけているとも言います。逆から見れば、答えに気づいているからこそ、自問を発するのかもしれない。

なぜ、この出来事は私の前にやってきたのか？そう問いかければ、その失敗や出来事を招いた自らのマイナスにも気づくでしょう。気づきの積み重ね。そんな時間は、確かに自分にとって味方といえる時間に違いないのです。時間を味方にする生き方。とても魅力的な船井先生の言葉です。成功が性格によってもたらされるとすれば、時間を味方にできる性格であれ！ともいえます。「愚痴るな、嘆くな、舌打ちするな。これは早く成長する鉄則だよ。せつかく君に何かを教えようとして、くるのだから」そのとき、阪神高速を走りながら、徹夜の続いた数日間のことを考えていました。確かに、先輩に怒られたことも、時間を守れずに落ち込んでしまったことも、原因は自分にあると気づきました。「気づけば、それでいい。ただ心に刻めばいい。人間の成長はすべての原因が自分にある、そう気づくことから始まるのだよ」現状肯定・過去オール善という船井先生の言葉があります。あらゆることは、いま、この瞬間から始まります。私たちには、いましかないのだよ、と先生は語り続けました。いまというスタート点を批判したり、否定したりしても、よいスタートは切れないと言うのです。どんな過去であれ、自らに何かを教え、気づかせるための過去です。そして、いまがあります。いまこの瞬間は過去の教えと気づきの積み重ねの上に存在するのです。過去オール善。どんな過去であれ、全力で肯定してあげなさいと船井先生は言います。そのうえで、その過去からの教えに目を凝らすのです。こうも言えます。学びえた過去は、いまにとって間違いなく善なのです。過去を否定し、いまに目をそむけたとして何が得られるのでしょうか。現状肯定・過去オール善。そう発想することが、時間を味方にすることでもあります。時間を味方にすれば、人相がよくなる。時間を敵に回せば人相さえ悪くなる。確かに船井先生の言うとおりです。過去に拘泥し、過去を否定し、自らのいまを否定してしまった人間は、寄りどころさえないのであるから。いま、時間は味方になっていますか？敵になっていますか？鏡を見ればわかるのかもしれない。

カッコ内を埋めてください

「()、()、()。これは早く成長する鉄則だよ。せつかく君に何かを教えようとして、くるのだから」